

YWVOB会 会報 No.32

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部OB会

<http://hw001.gate01.com/hkanoh/index.htm>

2006年4月1日発行

～ 32号の目次 ～

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| ・OB会役員会報告・・・・・・・・・・1 | ・自由投稿（ロンドン支部便り）・・・・・・・・12 |
| ・創立50周年記念事業に向けて・・・・・・・・2 | ・自由投稿（中島みゆきコンサート）・・・・13 |
| ・2005年シニアOB月例山行報告・・・・・・・・3 | ・第15回OB山行（大菩薩嶺）報告・・・・15 |
| ・苗名小屋便り・・・・・・・・・・6 | ・第16回OB山行（檜洞丸）案内・・・・16 |
| ・期別便り（36期）・・・・・・・・・・11 | ・たすねびと・・・・・・・・・・17 |

■ OB会役員会報告

幹事長 石川 真 (41期)

2006年度最初の役員会が下記の要領にて開催されました。今回は50周年関連事業についての議論がなされました。このことから、50周年準備委員会の方々も参加されました。

また、かねてからの大雪の対応について小屋委員会からも報告をいただきました。

1. 日時：2006年1月15日 15:00～18:00
2. 会場：ルノアール関内2号店
3. 出席者：

<役員メンバー> 嘉納 会長〔1〕 吉野 会計幹事〔2〕 松本弘 総務副委員長〔7〕
池原 小屋委員(小屋委員長代理として出席)〔8〕 松本真 編集委員〔8〕
下村 編集委員長〔10〕 横溝 総務委員〔21〕 覚田 総務委員長〔40〕
石川 幹事長〔41〕・・・・・・・・・・定足数 5/8

<50周年準備委員会メンバー> 井上 委員長〔3〕 金田 委員〔3〕 吉村 委員〔3〕
安藤 委員〔11〕 榎本 委員〔12〕 山川 委員〔12〕

4. 主な内容・決定事項：

① 50周年関連事業について

50周年準備委員会より関連事業案の報告がありました。準備委員会と役員会メンバー同士の意見のすりあわせを行い、今後の準備委員会での議論の基礎固めとしました。

【今回決定した内容】

- ・会員に各種資料提供を求め、さらに50周年関連事業について広く周知するため、事業内容に関するアンケートを送付する
- ・アンケート内容は50周年準備委員会にて決定する
- ・その他、事業内容について50周年準備委員会で意見をまとめる

② 苗名小屋関係について

折からの豪雪により雪下ろし回数の増加が見込まれることから、小屋委員会としての今後

の見通しについて報告をいただきました。

【報告内容】

過去、雪下ろし補助は現役と部外者の参加者のみに支給（交通費半額とリフト代千円）していた。しかし、今シーズンは雪下ろし回数が増加するにも拘らず、参加する OB は残念ながら一部の参加者に限られており、その方たちが度々小屋を訪れるのが現状。

小屋を放置するわけにも行かず雪下ろしを実施していただく OB 会員に、幾ばくかの補助を実施したい。また、小屋への寄付も会費納入振込用紙に項目を復活して欲しい。

【役員会としての見解】

小屋委員会の雪下ろし予算範囲内であれば小屋委員内での話し合いにて、よい意見を出合って欲しい。会計上、一般寄付の半額を小屋会計に振り替えることとなった。

また、小屋寄付の項目は次回以降復活することとする。ただし、今後特別寄付を募ることはしないということは 04 年度総会にて決定済みということを確認した。

③その他

・交通費補助について

関西支部長の総会出席に関して交通費の半額補助を行なうことが決定しました。



役員会実施後、盛大に新年会を実施しました。また、会費の残金を雪下ろし寄付金としました。

■ 創立50周年記念事業に向けて

50周年事業準備委員会 委員長 井上 肇（3期）

<YWV 50周年記念部史編纂に関する資料提供とアンケートへのご協力のお願ひ>

皆様方が青春の一時期を過ごされた、横浜国立大学ワンダーフォーゲル部が、2007年に創部50周年を迎えることとなり、2005年秋のOB総会で50周年事業を行うための50周年記念事業準備委員会が設立されました。委員会では50周年記念事業の基盤作りのために資料、データの蓄積を図り、記念事業としての式典、祝賀会の計画を進めています。

つきましては、次のような資料の提供と50周年記念式典、祝賀会の持ち方等のアンケートにご協力をお願い申し上げます。

<資料>

- ①スカイラインについて
- ②遭難事件について
- ③合W、他大、他機関との交流について
- ④公式ワンダリングについて
- ⑤部会議、研究会等について
- ⑥各期の主張、意見対立等について
- ⑦部での日常生活について
- ⑧OBとしての活動について

以上の資料の詳しい内容とアンケート、提出先については同封の資料をご覧ください。

■ 2005年 シニアOB月例山行報告

シニアOB月例山行委員長 塚原伸一郎 (2期)

■シニアOB月例山行

シニアOB月例山行は1999年1月に始まりました。2005年で丸7年続きました。シニアの集いの行われる月を除いて、毎月1回(ときには2回)開催され、年に11~12回になります。

05年12月に通算78回を迎えました。このうち雨天による中止が6回ありましたので、実施は72回です。あと2年で100回を迎えます。

ちなみにシニアOBとは、1期から8期までの137名をいい、平均年齢は推定64.5歳です。

■2005年の月例山行

05年のシニア月例山行は、7月の根子岳が台風で中止になり、実施は11回でした。年間の参加者は367名、平均33.4名で前年より少し増加しました。

[1月22日] …第67回 大島・三原山、快晴、46名

- ・初めての船旅、好天に恵まれ、46名という史上2位の参加者だった。
- ・あしたばおにぎり、深海にがり水、椿1輪お土産つきのクーポンは好評。

[2月5日] …第68回 北横岳、晴、18名

- ・冬期番外として設定されたが、参加回数も通算し、2月定例の補完として皆勤賞もカウントすることになった。
- ・シニア月例初めての雪山、好天に恵まれ快適な雪山ハイクであった。
- ・積雪公表1.4mだが、道は踏まれていて歩き易い。山頂は風強く寒い、-17度。

[2月26日] …第69回 湯河原・幕山、晴一時小雪、43名

- ・朝は晴れていたが、頂上に到着するころから小雪となった。
- ・さすがに梅のシーズン、すごい人出でどこも満員。

[4月2日] …第70回 守屋山、くもり、39名、貸切バス

- ・ザゼンソウを見ようと、3月度月例を4月2日に変更してでかけたものの、まだ少し早かったようだ。山道には雪がかなり残っていて、思わぬ雪道ハイクとなった。
- ・12期榎本氏、14期小口氏以下次世代シニアが5名も参加してくれた。

[4月23日] …第71回 飯盛山、快晴のちくもり、33名

- ・平沢峠まで車で登ったのでコースはとても楽。雪をかぶった八ヶ岳の眺めは抜群。
- ・頂上近くで9期三浦正継氏の3回忌の黙祷を捧げた。

[5月28日] …第72回 丹沢・不老山、晴のち曇り、32名

- ・お目当てのサンショウバラはまだ咲いていなかった。
- ・ミズキやハリエンジュ、ウツギがたくさん。

[6月25日] …第73回 日光・切込湖、刈込湖、くもり、28名

- ・丁度ニッコウキスゲの時期に当り、東武電車、バスいずれも満員。
- ・ズミ、ベニドウダン、ヤマツツジ、ツクバネウツギ、ミツバオウレン、ズダヤクシュが見ごろであった。

[7月27日] …第74回 根子岳

- ・台風のため中止、これで中止は6回目。

[8月24日] …第75回 鹿俣山(かのまたやま)、曇時々小雨、33名、貸切バス

- ・小雨模様だが、涼しくて快適な登山だった。

- ・玉原湿原には花はほとんどなし。タムラソウくらい。スキー場にはヨツバヒドリが盛大に咲いていた。ラベンダー園にはヤナギランがあった。ブナ平のブナは見事。

[9月17日] …第76回 箱根・仙石原、快晴、33名

- ・名物のススキを見ようと桃源台から大湧谷に登り、仙石原に下る。
- ・道中は藪漕ぎもあったが、ゲンノショウコやホトトギスがたくさん咲いていた。
- ・仙石原のススキは圧巻、背丈より高い。観光客がゾロゾロ。

[10月14日] …第77回 安達太良山、快晴、30名、貸切バス

- ・紅葉見物の混雑を避けて平日に変更。お蔭で道路、往復とも順調、温泉も独占。
- ・それでも奥岳温泉の駐車場は半分以上埋まり、相当の人出であった。
- ・帰路、バスの中で第77回喜寿記念大福引大会を開催、1等高度計付腕時計、2等ミレー高級リュック以下、多数の賞品に歓声が上がった。

[12月17日] …第78回 蕨山、快晴、32名

- ・05年忘年山行は奥武蔵の蕨山。雪も少々あったが快晴で風もほとんどなし、快適な陽だまりハイクであった。
- ・下山後05年各表彰を行った。企画賞は9月箱根仙石原すすき（4期、谷上）、皆勤賞は過去最高の9名であった。



05.4.23 第71回月例 飯盛山

■2005年実施状況

[月別実施状況]

回	月日	コース	天候	幹事	参加者	摘要	
第67回	1.22(土)	三原山	◎	4期谷上	46	貸切バス	
第68回	2.5(土)	北横岳	○	7期小林	18		
第69回	2.26(土)	幕山	△	5期亀井	43		
第70回	4.2(土)	守屋山	△	6期岡田	39		
第71回	4.23(土)	飯盛山	◎	7期小林	33		
第72回	5.28(土)	不老山	△	8期田中	32		
第73回	6.25(土)	切込湖・刈込湖	△	1期嘉納	28		
第74回	7.27(水)	根子岳	中止	2期塚原	—		
第75回	8.24(水)	鹿俣山	△	3期腰塚	33		貸切バス
第76回	9.17(土)	仙石原すすき	◎	4期谷上	33		貸切バス
第77回	10.14(金)	安達太良山	◎	5期亀井	30		
第78回	12.17(土)	蕨山	◎	6期岡田	32		
					367	月平均 33.4	

[2005年皆勤賞]

期	氏名	摘要
2期	吉野大次郎	6回目
3期	腰塚 典明	7回目
3期	吉村 元孝	初回
4期	郡司 直樹	2回目
4期	谷上 俊三	初回
6期	永井 紀子	初回
7期	古宮智津子	4回目
7期	小林 秀臣	初回
8期	松本真理子	初回

[30回参加賞]

期	氏名	通算回数 回
2期	宮本 高子	30
4期	大黒美代子	36
5期	亀井 昭子	35
6期	永井 紀子	37
7期	下村 蓉子	34
7期	井上 義雄	33
8期	池原 盛彦	33

(通算回数は05年12月現在)

[50回参加賞]

期	氏名	通算回数 回
1期	嘉納 秀明	50
1期	吉田 輝義	51
2期	塚原伸一郎	52
2期	北見美智子	52
3期	白井 信行	53
3期	塩谷佐紀子	56
4期	郡司 直樹	58
4期	谷上 俊三	58
7期	古宮智津子	51
7期	小林 秀臣	50
8期	松本真理子	53

■年度別実施状況

[企画賞]

年	月	コース	幹事
00年	12月	石割山	7期小林
01年	6月	尾瀬ヶ原	4期斎藤
01年	11月	大菩薩嶺	2期塚原
02年	5月	甘利山	7期小林
03年	5月	榛名山	2期塚原
04年	03.12月	仏果山	8期田中
04年	1月	宝登山	1期嘉納
05年	9月	箱根仙石原	4期谷上

[参加者数]

年	実施回数	参加者 人	1回当り 人
99年	10	238	23.8
00年	11	304	27.6
01年	10	317	31.7
02年	9	340	37.8
03年	11	337	30.6
04年	10	332	33.2
05年	11	367	33.4
計	72	2,235	31.0

[参加者数ベストテン]

順位	コース	年月	幹事	参加者 人	摘要
1	鎌倉・源氏山公園	02年1月	3期江崎	47	OB会と合同、貸切バス
2	三原山	05年1月	4期谷上	46	
3	磐梯山	04年8月	8期田中	45	
4	大菩薩嶺	01年11月	2期塚原	43	
4	日光・白根山	02年6月	8期池原	43	
4	幕山	05年2月	5期亀井	43	
7	パノラマ台	02年3月	5期亀井	42	
7	甘利山・千頭星山	02年5月	7期小林	42	
9	仏果山	03年12月	8期田中	40	
9	宝登山	04年1月	1期嘉納	40	

■2006年シニア月例山行予定

(*貸切バス利用)

回	月日	行先	回	月日	行先
第79回	1.22(日)	(鎌倉)天園	第85回	6.25(日)	(丹沢)三ノ塔
第80回	1.28(土)	(南ア周辺)入笠山	第86回	7.26(水)	(近江)伊吹山*
第81回	2.25(土)	(丹沢)大野山	第87回	8.24(木)	(越後)八海山*
第82回	3.25(土)	(奥武蔵)日向山・丸山	第88回	9.23(祝)	(草津)白根山*
第83回	4.22(土)	(上州)大峰山・吾妻耶山*	第89回	11.25(土)	(赤城)地藏岳*
第84回	5.27(土)	(塩原)高原山*	第90回	12.16(土)	(中央沿線)陣馬山

■ 苗名小屋便り（小屋維持について考える）

小屋委員 池原 盛彦（8期）

1. はじめに

OB 会報 32 号に小屋報告を投稿してほしいとの編集委員会からの依頼があって、はて、小屋をこの目で見ずして何の報告かな、と 2 月の最後の週末に出かけてきました。幸いにも 25 日（土）は絶好の快晴で小屋周辺は春山気分でした。積雪量は例年プラス 1m ですがもう春のしまった雪で部分的には凍っておりスコップも通らない状況でした。（写真1参照）小屋の除雪で一番重要な周辺との縁切りがなされていないのが気になります。今回妙高に出かけて感じたことは今年の冬は一月早く来て一月早く去ってゆくようです。五八木荘の悟おじさん、究さん、皆さんの感触もそのようです。このズレを意識していない新聞他メディアの大騒ぎは少しズレていると感じました。

しかしながら、12月の豪雪には驚きましたね。例年に無い豪雪に小屋委員会では除雪事務局を急遽設置し、笹倉事務局長の号令一下皆様の協力を得て除雪・雪上げ作業を展開しました。幸いにも2月以降は降雪量も少なく、1月に実施した小屋思いの熱心な方々の除雪効果と相俟って小屋は守られました。まずはご報告申し上げます。



写真1：小屋の状況です。
今年は軒以上まで積雪がある。この雪が小屋の屋根のと繋がっています。このままではまずいですね。

2. 問題提起



写真2：造林小屋庇の縁切りをしてくれた鈴木君(右)とスコップでポーズだけの池原
後ろは2階の窓、玄関の庇は雪の下にあります。

今冬の豪雪のおかげで小屋の除雪のあり方について小屋委員会内で種々の意見が交換されました。いつまでも一部の人に頼っていてよいのだろうか、交通費補助も出さないで良いのだろうか、等々です。今回小屋に出かけたもう一つの目的はこの交通費補助について14期の鈴木小屋委員と顔を合わせて打ち合わせることでした。顔を見て直に話すということは意思疎通の点でメールと比べて格段に良いですね。本報告の(2)現状維持の項には打ち合わせた内容も盛り込んでいます。

ところで、この機会に除雪だけではなく小屋維持管理全体について考えることは重要なことだと思いますので、この場を借りて皆さんにも考えていただきたく問題提起をします。ほとんどは池原個人の偏見と思ひ込みの問題提起ですから小屋委員会に対しての苦言も入っています。皆

さんからもいろいろご意見をいただきたいと考えています。

(1) 小屋の維持管理とは何をすることなのだろうか

今、地方ではバブル期にできた箱物（ホテルですとか体育館ですとか道路等々）の維持管理にヒーコラ言っています。原子力発電所を作るときに電力の援助でできた発電所周辺の各種施設も同様です。物を作るのは一時の気分と金の集中でたやすいのですが、これを末永く維持管理することはそう簡単ではありません。

小屋の維持管理とはなんなのでしょう。単に今ある小屋をそのまま保存することでしょうか？小屋を有効に使ってこそ維持管理の意味があります。そのためには①現状維持は基本です。でも世の中変わります。それに合わせて②改良が必要でしょう。それでもまだだめです。小屋に③リピーターを呼び込まなければ小屋は閑散として結果潰れます。以上の三つを問題提起しその展開をここに記してみましよう。

(2) 現状維持

現状維持というとすぐに除雪ですとか修理ですとかに話が行きますがその前に大切なことを忘れていませんか？岡田さんを大切にしてくださいということです。小屋に行くときに声を掛けていますか？もしかして寄るのを面倒だと避けていませんか。お土産くらい時々持っていきましょう。地代はちゃんと払っていますか。造林小屋の除雪状況は報告していますか？岡田さんとの良好な関係が現状維持の基本です。五八木荘との関係はほんの一握りの人で繋がれているようで心配です。

以上が出来ているとして次へ進みましょう。風雨や雪で小屋を潰してしまっは元も子もありません。当面の課題は除雪です。12月の豪雪に心配した小屋委員会は大きな除雪作業を呼びかけました。おかげで2月末までに4回の除雪と延べ30名の動員により何とか最初の写真のような状態になっています。

「でも縁切りという周辺の雪と切り離す作業がなされていません。これは絶対にやってください。でないと屋根を壊し果ては建物をつぶします。参考にスキー場脇の大きな妙高国際ロッジの崩壊現場（右写真）をお見せしましょう。ここ10年ほど人が入っておらず痛んでいたのが潰れたとのこと。苗名小屋だってほとんど人は入っていませんから同じ痛み具合ではないでしょうか。こんなふうにならぬように潰れてから悔やんでも後の祭りですね。雪はただ積もっていても大したことはないのですが、屋根の雪と周囲の雪との繋がりが恐ろしいのです。



写真3：雪で潰れた妙高国際ロッジ
なんとも凄まじいのですが写真では表せません。残念！

ここで縁切りについて説明しましょう。

写真4は五八木荘の造林小屋の玄関の庇を雪上から撮影したものです。庇の上には雪が乗ったままで周囲の雪とは切り離されていることがわかりますね。このように切り離すことです。この作業は鈴木さんが私と会う前にやってくれました。五八木荘に戻った時おじいさんに会ってお話したらこれで造林小屋は大丈夫だと大変喜んでおられました。苗名小屋の縁切りは絶対やって下さい。お願いします。」



写真4：造林小屋庇の縁切り（庇を雪の上から見下ろした写真です）
周囲と切り離されていることが判ります。
庇の上にはまだ大きな氷の塊が残っていますがこれは大丈夫です。

ところで除雪の動員は今までほとんどボランティアでした。OBには交通費補助もないのです。好きでやっているのなら良いのですが皆さん仕事や家庭の都合をつけて無理してやってくれているのです。その方々にいつまでもおんぶに抱っこで良いのでしょうか。小屋委員会では交通費の補助を検討しています。その内容をこっそりお教えしましょう。正式には少し変わるかもしれません。

「公式の除雪呼びかけに対して出勤した方の交通費相当額の約半分までを補助する。たとえば東京から小屋まででしたら5000円とする。その根拠は夜行バス片道4000円、リフト1000円の計5000円です。多くの方はJRを利用されるので片道分にも足りませんが、補助にはなるでしょう。」

ということでおんぶに抱っこを止めて費用を少しでも援助しようという方向で検討しています。でもそれにはお金がかかるのです。小屋を維持するにはお金がかかるということを、小屋を残しておきたいと考えている方々にはわかっていたいただきたい。大屋根の修理の寄付を行なった時、OB総会では今後しばらくの間、小屋寄付は行わないと決めました。でも維持しようと思うならばお金がかかるのです。小屋委員会では皆さんからの寄付を**細く長く**募っていきたいということを検討しています。大屋根の寄付のような大きなものではありません。今OB会からは年30万程度の小屋費が出ています。でもこれから小屋設備費を除くと除雪の方々への交通費はまかなえません。あと10-20万円/年ほしいのです。この10-20万円をOB会からではなく小屋を想う方の寄付で補いたいのです。この寄付については最後にお話します。

この項目少々長くなりましたがいかがでしょうか。そんな案を小屋委員会は考えています。

(3) 改善

この項目は **DIY (Do It Yourself)** としても進めていますし、会報にも報告していますので簡単にとどめます。

苗名小屋は昔のままでよいと思っておられる方もいらっしゃると思いますが時代の変化は私達の心も変えています。古きよき時代への郷愁でしょうか、ランプの宿に憧れる方が多く居られます。しかし、ランプの火屋を磨こうという方はそう居られないですね。YWV だって同じです。小屋のランプの手入れは人任せなのですよ。おまけに芯は落とすし壊すし、とても世話をやけなくなりました。だから皆さんが日常使っている電灯を設備しました。

最近の山小屋の設備たとえば暖房、綺麗な乾いた布団、常夜灯、室内トイレ等々が改善されてきています。そうしないと皆さん泊まってくれないのです。苗名小屋の建設は今から約 40 年前になります。私が学校を卒業した年でした。ですから小屋の設備は当時の山小屋それも避難小屋の程度です。ここ数年の DIY で小屋のジメジメ湿気、照明、暖房、水道、トイレを改善しました。ですが、この程度で本当に皆さん小屋に来てくれるのでしょうか。更なる設備改善が苗名小屋維持の 2 番目の課題です。もちろん何を改善するかも大切な検討課題です。最近の私にとって昼間でも小屋は暗いです。天気が良くても小屋の中では本も読めません。明かり採りを作りましょう。それから台所の設備がまだ汚いですね。改善しましょう。

(4) リピーターを呼び込む小屋とは？

ところで、小屋がいくら良くなっても「いつも同じ小屋に行くなんて」と考える方が相当数居られるでしょう。私が知る限り別荘も同じです。そこを拠点とする行き先がなくなった時、その拠点に行かなくなるのです。ですから小屋に 2、3 度来ればもう来ません。これを改善しリピーターを増やすこと、それが本当の小屋維持（地方で言う村おこし）なのですがそういった活動には今まで誰も見向きもしませんでした。というより難しいので手を出せなかったのです。以下のような事を小屋委員会で声を掛けてやってはどうか。皆さんからの提案をいただきたいです。

- ①小屋の四季を楽しむ：これはそのままで楽しめます。でも少し何か加えてはどうか。例えばキノコ栽培をする、蕎麦を植える、などです。イモ類は野生動物を呼び込みますからやめましょう。
- ②イベントを開催する：小屋での写真展、絵画展、演奏会などです。毎回同じ BBQ だけではあまりに能がなさ過ぎます。小屋のバックヤードを掘り下げているが一部を高いまま残して舞台を作ろうかと考えています。ここで皆さんに演奏などをしてもらおうのです。いかがですか？「ワンゲルバンド XX 期隊」とかいませんか。
- ③小屋を拠点とした幅広い行楽地をアピールする：妙高苗名小屋というと随分山深いところと思われていませんか？実は綺麗な海が近いのです。有名な鯨波海水浴場だって 1 時間少々で行かれます。この日本海沿岸は東京近辺と違って自然豊かで今でもサザエなどが自分の手で取ってしまうのです。これは地元漁協には内緒です。そんな地の利をその時々に応じアピールしましょう。これは小屋ホームページの領域かな？
- ④小屋の今のこの日を知らせる：今桜が咲き始めましたとか、小屋の水芭蕉が見ごろですとか、火打山の残雪が今綺麗ですとか、小屋と周辺のライブレポートです。これは小屋 HP の領域でもありますね。オッ！見に行こうか！といった情報は小屋利用を伸ばしますよ。

3. 小屋寄付の意味

YWVOB 会にはいろいろな方が居られます。必ずしも小屋が必要とは思っていない方も多いでしょう。小屋をOB会費だけで維持するということはそういった方々から見れば納得できないでしょう。OB会費はYWVOB 会員にとっては税金みたいなものですからある程度は我慢するにしてもです。ここに、受益者負担（ここで受益者とは小屋を維持しておきたいと考えている方々）という考え方が出てきます。小屋寄付とは受益者負担であると考えてはどうでしょうか。寄付（寄付の額よりも件数）が少ないということは小屋はいらないと考える人が多いということです。ならば小屋を縮小すれば良いでしょう。さらには小屋をたためばいいでしょう。もし寄付が多いなら小屋をしっかり維持しましょう。

寄付を募れば皆さんの考えが判り、小屋の方向が見えてきます。寄付は人の心を示すバロメーターと心得ています。小屋委員会が小屋寄付を依頼するに当たっては小屋への真心でお願いしたい旨を書き添えて欲しいです。しがらみで寄付するのではなく自分の考えで寄付するかどうかを決めて欲しいのです。このことは皆様の判定を受けるようで非常に怖いことなのですがただらだと小屋を維持するよりも明確です。ある程度OB 会から援助を受けつつも、小屋寄付で運営できる小屋にすべきではないかと考えています。最終的には寄付のメンバーによる小屋維持会へと発展しても良いのではないのでしょうか。

最後になりましたが、今年度の小屋への寄付の状況を簡単に報告します。OB 会費納入時に小屋寄付をされた方は4名、その後除雪寄付をいただいた方が2月末で27名です。総額259,500円にもなりました。他にOB 会役員ならびに50周年記念行事委員の方々からも寄付をいただいています。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。有効に活用させていただきます。

4. ビューポイントのご紹介

スキー場にはごらんのようなすばらしい御神木があります。薬師寺の東塔の天辺にある煙を思い起こさせてくれるのでいつもここで仰ぎ見えています。小屋屋根の頂上にも飾ろうかな。



6人兄弟の原田 早くも3児の父親に



「いやいや、育てるのは大変ですよ」と語るのは昨年十一月に早くも3児の父となり周囲を驚かせた原田修平氏(三十二)。長野県の教職員として伊那、軽井沢と県内をまたにかけ、現在は長野市に勤務している。「オムツの入ったゴミ袋を3つベランダに置いておいたら、朝凍っていました」と寒冷地ならではのエピソードも披露してくれた。初めて小学1年生を受け持ったときには「1年生

は宇宙人」と話していた原田氏だが、その長男が宇宙人になる日も近づいてきている。

山麓新聞

社 社 長 史 日 月
 山 麓 新 聞
 松 山 集 隆
 編 邊 行
 渡 發 年 3
 2006

辻昌宏君至急連絡乞う
 友人一同

《指名手配》



通称 ハガゲン

三十六期の皇太子こと岡村希望一家が昨年、松山市の渡邊隆史・愛のもとを訪れた。写真は愛子様ならぬ優奈ちゃんと食事を楽しまれる岡村氏。



皇太子ご一家、松山ご訪問

一昨年の大池智之氏の結婚式(写真)の祝辞の中で、キヤノンが大池氏を引き抜いたともとれる発言があり、会場(のごく一部)は一時騒然となった。



キヤノン、TDKから技術者引き抜き疑惑

YVV50周年記念企画 ネパールの山旅

旅 程:17日間
 最少催行人数:5名
 最 高 峰:Mera Peak (6,476m)
 現地集合・解散 現地ではペニーがご案内します



ペニー 旅行社

お問合せ先 <penny@investmenttechnology.com.au>

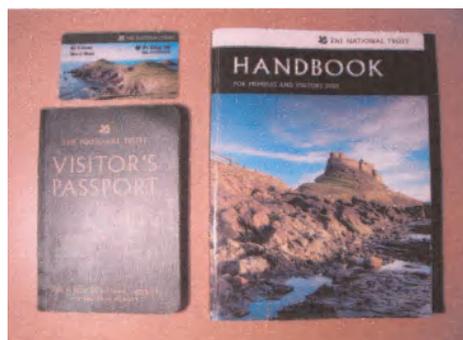
■ 自由投稿（ロンドン支部便り）

武藤 功二（20期）

kmutoh@nifty.com

YWVOB 会にロンドン支部があったかどうかはわかりませんが、こちらに駐在になって約3年弱が経ち、1人支部を名乗っています。

春の兆しがようやく訪れてきたロンドンですが、ご存知のように高い山はなく、丘陵地域が続き、もっぱら家族でウォーキングをしています。そうは言ってもフットパスに指定されているコースはあるものの、町の中を歩くもの、川（例テムズリバーウォーク）や湖の周り（例レイクディスクリクト）を歩くもの、丘陵地帯を歩くもの（ピークディスクリクト）等様々です。また、実際に歩いてみるとナショナル



トラストの管理地が多く、案内所、道々の標識、レストランやショップ、地図等のパンフレット等、大変充実している事に驚かされます。また旧貴族の邸宅等の多くも同管理地（相続税が高く払い切れないためらしい）となっています。

ピーターラビットの生みの親であるピアトリクス・ポッターがレイクディスクリクトの自所有土地を寄付した事は有名ですが、現在会員数 264 万人、管理地は全英に 300 ヶ所の規模を誇り、会員になると同施策への協賛の意味もありますが、会員証が発行され、どこの施設もフリーにて入場できる特典があります。

先日もロンドン郊外に泊りがけで出かけましたが、春の訪れを告げるスノードロップ（和名では待雪草または雪の華と呼ばれる）を始めとし、アーモンドチェリーの桜の花や、3月になると日本と同じ様に水仙が咲き、ナショナルトラストを利用した名所巡りには事欠きません。

英国内での旅行では、私自身は家族4人一部屋で泊まれるホリデイイン（プール、サウナあり）をもっぱら利用していますが、B&B（bed&breakfast：要は日本の民宿のようなもの）やキャンプ場（車での利用）も多く存在し、泊まる場所にはあまり不自由する事はありません。しかしキャンプでは肝心のテントのポールを忘れ、家族から非難され、結局車の中に寝泊りした事もありましたが、GARMIN社製のPDA型カーナビを利用して旅行を楽しんでいます。最近では日本からの熟年ツアーも増えてきましたが、コッツウォルズ、レイクディスクリスト等ロンドン郊外はこれから4~6月にかけてよい季節を迎えますので、是非ナショナルトラストでのウォーキングを楽しんでみてはいかがでしょうか？



また余談になりますが、こちらでは横国OBの会「富丘会」があり、昨今なかなか集まれる機会がありませんでしたが、ようやく昨年末に会合があり約10名ほど（ほとんど経済、経営出身者。30代メイン。教育学部出身の英国在住の方もおりました）が集まりました。常盤台にまつわる話に会話が弾みましたが、なんとなく世代の違いを感じさせられもしました。それはYWVのOB会でも同じだと思います。ちなみに本紙の寄稿文でも出ていた留学中

の44期志賀君とも食事をしたりしました。

最後に発祥については諸説があるものの「SUDOKU」（数独）がロンドンでは大ブレイクしてい

ます。縦、横、3×3のマスの中に1-9の数字を当てはめていくものですが（その中に唯一の数字という意味で数独と言うらしい）、難易度（表示されている数字の多さ、当然少ないほど、難易度高）別の全英選手権が、2月18日、日本企業スポンサーのもと開催されました。（日本でもニュースになっていませんか？）

そんなこんなロンドン生活ですが、まずい食事と世界一高い地下鉄（初乗り3ポンド、約600円）と奮闘しながら、学生時代から続けているバスケット（月に一回ほどの参加）、ゴルフ（いまだに打ちっぱなしのみ）、+上記のウォーキングを楽しんでいます。

同ロンドン支部活動もそろそろ駐在任期満了につき、クローズするかも知れません。日本からのニュース、メールを見ていると台風、地震、大雪による小屋の雪かき等大変なようですが、日本にても国立公園、トラスト運動、世界遺産指定活動等あるものの、本ナショナルトラストの様なボランティア活動をなんとか活発化できないものかと考えている今日この頃です。

<参考>

「イギリス ナショナルトラストを旅する」横川 節子 著

http://www.amazon.co.jp/gp/aw/d.html/ref=aw_mp_1/?a=4884924010&uid=NULLGWDOCOMO

「英国式自然の楽しみ方」中川 祐二 著

http://www.amazon.co.jp/gp/aw/d.html/ref=aw_mp_1/?a=4763096206&uid=NULLGWDOCOMO

GARMIN GPS PALM PDA 版 旧機種（アンテナ感度に少々難あり）

<http://www.garmin.com/products/iQue3600/>

SUDOKU

<http://www.sudoku.com/>

■ 自由投稿（中島みゆきコンサート）

高橋 秀雄（11期）

「中島みゆき 2005 コンサートツアー」横浜公演に行きました。

横浜といえば中華街でしょう。会場はカドをひとつ曲がったところで、バスに乗るわけではないから間違えないです。妻と中華街駅で待ち合わせて、まず中華のコースを食べました。「えびチリ、マーボ豆腐、なんとかなんとか」デザートもつきました。生ビールも飲みました。昔、横浜某大学のワンダーフォーゲル部だったころ（学部よりクラブの方が優先だったのか）クラブの資金を集めるため集団でバイトをしました。中小企業振興事業団のアンケートを取りに、中央区、荒川区に行きました。銀座の真中の老舗の何と言う店かは忘れたが、うちは中小企業じゃないと怒られたりしながら。その打ち上げを中華街でやりました。大勢だったので、端から皿をまわすと終わりの方はなくなったり、にぎやかに食べたのを思い出しました。だいたい、学生は金がないので料理は少力で、酒を飲ませあうのが定番でした。ある時、レストランにはいってその店の一番安いものを注文しました。ライスのみ。よく店の人は許したと思います。強気のやつは、テーブルにあったケチャップをたっぷりかけ、チキンライスのように食べました。

このバイトは部が持っていた山小屋の資金だったようです。山小屋は妙高山の山麓に現在もあり、建築科の先輩が設計したものです。先輩はこじんまりした小さな小屋のつもりだったのが、地元の工務店の方が標準どおりのものと勘違いしたのか、建ってみると大きなものでした。屋根から四隅に伸

びる筋交いは最初意図した土台から、それぞれ1メートル以上遠くなっていました。ひと回り、ふた回りも大きくなりました。おかげで、30年以上たった今でも残っています。落成式の時、クラブの部長の教授や、妙高の町長などの前で、工務店の社長は「わたしは泣きました。負けました。」といわれました。しかし、出来てもガスや電気、水道もないそれにストーブもない山小屋でした。おまけに、屋根のてっぺんは空気が抜けるようになっていましたから、雪が降ると部屋にはいつてきました。ストーブを置く予定のところにこんもりと積もりました。最初の冬は、2階から畳を下ろしてきて、トイレの前にならべてその上に寝袋で寝ました。水は近くの井戸からくんできます。冬は5メートル以上の積雪ですから、多分ここらあたりと、掘ってみること十数回。見つからず、雪を溶かして水を作りました。ですから、男性は来たときから帰るときまで、風呂も洗顔もせず、女性は隣のスキー場のレストランに行って、顔や髪を洗っていました。雪焼けしてカッコウ良くなったと思っても、下で顔を洗ったら白くなっていた、単に汚れていただけ。

神奈川某大学の同じクラブの方が、スキー合宿のため小屋を貸してほしいと言われました。総勢20名以上が、重いザックを担ぎながらスキー場の端を登ってきました。「何もないよ」と言っておいたのに、そうとう大変だったようです。なにせ、夜は零下20度、中もそれと同じぐらいでしたから。それから、一度も貸してくれとは言われません。今は、まきでたくストーブも、発電機も、それにドラム缶風呂もあるそうです。

学生運動の嵐が吹き荒れて、10ヶ月も授業がなかった時、これ幸いと、スキーをしていた。山小屋は一人で泊まると風の音や、だれかが外で何かをたたいているような音が聞こえ、不眠になり、一晚で退散しました。夏はそれでも数回一人で泊まりました。小屋の数ある穴の中に小鳥が巣を作り子育てをしていました。その親子と一緒に夜は寝ました。鳥にとっては迷惑だったに違いありません。

会場に着く前に、山下公園に寄りました。夜景はさすがにきれいでした。昔この公園で、仲間と酔って騒いで寝ていたことがありました。ウイスキーの空瓶を枕にして。「世情」の前の時代でしたから、穏やかだったのかもしれませんが。そこへ、刑事を名乗る男がやってきて、身分証明書を出せというので学生証を見せました。年齢をチェックして帰っていきました。あれは、何だったのだろうか。多分、ここではないところ、本牧のあたりで、やはり、同じ仲間と浜にきたところ、幻覚か幻か 女の人が20メートル先の水の中にいた。ひざから腰あたりまで水につかって、ただじっとしていました。警官が、ガチャガチャ音を立て、「まいったな」といいながら、やってきました。声をかけると、岸のほうへもどっていったような、沖に沈んだか、後のことは良く覚えていません。ただ、「夜の入り口は寂しかった」のかも知れません。

港は余情あるところです。港ならではのアルバイトもあります。大棧橋で、ウォッチマンというバイトをしました。夕方から朝まで、積荷をおろす作業員を見ているだけの仕事です。そのころは、コンテナ船は稀だったので、船倉の中でダンボール、ドラム缶などの荷物を運ぶことを手作業で行っていました。声をかけられたのは、「今、何時」と尋ねられたきりでした。それで、ウォッチマンというのかも知れません。

船に車を積み込むバイトもしたことがあります。最初の日、クラウンのバン型の大きいのを、運転しました。専用船ではなかったようで、エレベータで甲板に出て、ほそい通路をおそろおそろ動かししました。案のじょう横の手すりにぶつけてしまいました。ドアがペチャンとへこみ、船の手すりごとれてしまいました。しかし、車はそのままアメリカへ輸出されていきました。あとで、船員が手すりを溶接していました。それを横目でみながら、続く作業をしてバイト代をもらいました。ぶつけたのはそれだけで、あとは慣れて快適に仕事をしました。専用船ともなると、地上5階地下7階（その反対か）のビルのような船の上から下までいっぱい車を載せます。車と車の間は握りこぶし1つ分

しかありません。くつつきすぎて、最後に降りるのは、窓を開け窓から出ます。車の車庫入れ、縦列駐車練習にはもってこいでしょう。しかも、もたもたしていると作業員が「どけ」と言って、代わりに所定の位置までつけてくれます。作業員は無免許だそうです。意地でもそうはさせじと運転技術を磨きました。

横浜の町を久しぶりに歩いて、遠い昔の日と別れし仲間を思い出しました。

■ 第15回OB山行（大菩薩嶺）報告

OB山行委員長 小野恵美子（34期）

〔日程〕2005年12月10日（土）

〔参加者〕嘉納[1]、吉野[2]、谷上[4]、小林[7]、松本(弘)[7]、松本(真)[8]、下村[10]、山本[10]、安藤[11]、榎本[12]、小口[14]、山下[17]、小野[34]

（計13名・敬称略・[]内数字は期）

去る12月10日の土曜日、日本百名山の一つ大菩薩嶺に登ってまいりました。

山には数日前に降った雪がかなり残っていて、予想もしない雪山歩きを楽しみました。

朝9時塩山駅に13名が集合。10期下村さんがOB山行初参加です。

少し寒いけれどお天気は上々マイカーに分乗して登山口へ。

但し先の林道も凍結しているかもしれないとのことで、途中、営業前の大菩薩の湯に駐車させてもらい、雪道仕様の谷上さんと小林さんの車に皆乗り込んで上日川峠へ。

高度が増していくと、辺りはすっかり雪景色になりました。車を降りて開会式。そこで嬉しいプレゼント。下村さんからあったか〜いお汁粉、安藤さんからかわいいキャンディーの詰め合わせの差し入れです。本当においしかった！ありがとうございました。

食いしん坊の私はそこですっかり満足したのですが、「そこに山があるから」やはり登らなければと支度をして（嘉納さんは立派なアイゼンを装着されました）10時から登り始めました。

並んでザクザクと雪の上を歩いて行きました。とても気持ちが良い。福ちゃん荘まで来て、山下さんが足を痛めているとのことで別コースに行くことにされました。自分の体調に合わせて無理をしないのは大事ですね。きっとそちらのコースも素敵な山歩きだったでしょう。

私たちは唐松尾根を登って大菩薩嶺を目指しました。雪の白と空の青が何とも美しく、幸せな気持ちになりました。振り返ると富士山と大菩薩湖の雄大な景色が。この日の富士はシルエットのように黒っぽく浮かび上がって見えました。横にもくもく雲をなびかせ、パーマをかけたようでした。少し汗ばみながら雷岩まで登りつめると、そこは冷たい風が吹きさらしで、じっとして



大菩薩嶺にて

いられない寒さでした。すぐに大菩薩嶺の頂をピストンして先を急ぐことにしました。

頂上は木々に囲まれて展望が無く、狭くて意外な程地味ですが、やはり恒例の記念撮影。そこからは寒さとの闘いでした。富士山を横目で見ながら早歩き。ちょうど12時に賽の河原の避難小屋に逃げ込んで昼食となりました。きれいな景色を楽しみたいのに寒さには勝てない。人間ってやっぱり自分を守ることが第一なんだなあ、なぜかせつない気持ちになったりして。

休憩も40分そこそこで出発、大菩薩峠に向かいました。峠は中里介山の記念碑、句碑、売店な



どがあって頂上とはうって変わって華やかです。ここで山下さんと再会し、全員揃って記念撮影となりました。歩いて来られた道に戻る山下さんを見送って、私たちは石丸峠を経て上日川峠に戻ることにしました。

熊沢山という小ピークを越える日陰の道はまさに雪山。予想外の急登で皆少々無口になりました。石丸峠は熊笹が一面に広がる気持ちの良い場所でした。そこからまた登ったり下ったりしながら上日川峠へと戻りました。途中、「こっちの林道を行ったほうが近いのではないか。」「何で最後に登りがあるのだ。」などと賑やかなブーイングもありましたね。

皆様お疲れ様でした。楽しく貴重な山歩きでした。車を停めた大菩薩の湯にゆっくりと浸かり、帰路につきました。

■ 第16回OB山行（檜洞丸）案内

OB山行委員長 小野恵美子（34期）

次回のOB山行は、YWVのホームグラウンド・丹沢山系の檜洞丸登山を予定しています。薫風と新緑の爽やかな季節、一緒に山歩きを楽しみましょう。初参加の方も大歓迎！皆様ぜひご参加ください。

- 〔日 程〕 2006年5月13日（土）
- 〔行 先〕 檜洞丸（1,601m）
- 〔地 図〕 昭文社山と高原地図「28 丹沢」
- 〔集 合〕 西丹沢自然教室（バスまたはマイカーで） 9時30分
- ※ マイカーでお越しの方はお申し込みの際その旨ご連絡ください。
- 〔交 通〕 小田急線 新宿駅 6:50～（海老名駅 7:34）～新松田駅 8:11
富士急湘南バス 新松田駅 8:25～西丹沢自然教室 9:36
- 〔行 程〕 西丹沢自然教室——ゴウラ沢出合——檜洞丸——石棚山——箒沢公園橋
——西丹沢自然教室 [歩程約6時間]
- 〔参加費〕 500円（写真代等）
- 〔持ち物〕 昼食、水、おやつ、雨具、防寒具、その他登山に必要な物
- 〔温 泉〕 中川温泉ぶなの湯（700円）等あり。下山後ご希望の方はご用意を。
- 〔申込み〕 参加ご希望の方は5月5日頃までに下記のいずれかにご連絡ください。
吉野大次郎（2期） 電話：090-6485-9268 メール：yoshino@r07.itscom.net
小野恵美子（34期） 電話：080-5517-7320 メール：emiko150@s9.dion.ne.jp

■ たずねびと

名簿係 渡邊 隆史 (36期)

いつも名簿作成にご協力いただき、ありがとうございます。おかげさまで現在名簿には572名の会員が載っておりますが、残念ながら下記31名の方の現住所等が不明となっており、会報等をお送りすることができずにおります。下記の方々の現住所等をご存知の方がいらっしゃいましたら、名簿係までご一報いただけますよう、お願いいたします。なお勝手ながら、お知らせいただく情報は、過去1年以内に年賀状等で確認が取れているものとして下さい。ご協力のほど、よろしく願いいたします。

なお、会報30号の時点からたずねびとリストは5名減りました。情報をお寄せいただいた方々にはこの場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

<連絡先>

〒799-2431 愛媛県松山市北条317-1-201

e-mail : tac_tacsen@yahoo.co.jp

名簿係 渡邊 隆史 (36期)

たずねびと (敬称略)

1期 小野三郎	16期 本多賢	21期 山本規雄	26期 関根弘之
5期 高垣(深尾)昌夫	16期 内山(高橋)誠	22期 西田博司	26期 藤原芳樹
7期 北見澄代	16期 清水(山崎)恵子	22期 松田裕	28期 木綱祐貴
10期 佐藤一祥	19期 大橋(横溝)玲子	23期 荒井吉則	28期 山本先隆
10期 武重孝雄	19期 久保守	23期 湯浅祐光	29期 山本博之
12期 山下久男	19期 白川正	23期 神谷康弘	36期 はが巖
12期 武者(桐生)真紀子	20期 青山功	26期 川邊茂寿	38期 岡安貴裕
13期 赤松明	20期 林(田中)栄美子	26期 坂田将美	



春 河津桜

YWVOB 会会報第32号

発 行 : 横浜国立大学ワンダーフォーゲル部 OB 会

発 行 日 : 2006 年 4 月 1 日

発行責任者 : 嘉納 秀明(1)

編集責任者 : 編集委員長 下村 蓉子(10)

編 集 : 編集委員 松本真理子(8)

編集にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。